

令和7年4月開校

県立安積中学校（仮称）説明会記録

概要

- 実施日
令和5年11月13日（月）～28日（火） 福島県内各地域で8回実施
- 参加者
 - ・申込件数 約300件
 - ・小学校5年生児童及びその保護者 合計 約470名
- 内容
 - ・県立安積中学校（仮称）の教育内容や生徒募集について（県立高校改革室）
 - ・安積高校が目指す学びの在り方について（安積高校）
 - ・質疑応答

質疑応答のまとめ

※ 説明会での質疑応答をもとに、同様の質問をまとめたり、内容を要約したりして、Q&A形式で記載しています。

<入学者選抜関連>

Q. 適性検査について、他の県立中学校と同一の形式の問題となりますか？
また、事前に問題等が提示されたり、プレ入試のようなものが開催されたりしますか？

A. 県立学校であるので、県内3校は同一の問題となります。検査問題の詳しい内容や方式について示すことは、予定していません。

Q. 選抜方法について、選抜資料の比率はどうなりますか？例えば、英検等や校外でのボランティア活動などに加点はありますか？

A. 入学者の選抜方法について、現在お示しできるのは、スライドの内容です。詳細については検討中ですが、選抜資料を基に総合的に判断する考え方は変わりません。

Q. 県立安積中学校の入学者選抜に関して、地域枠や地域ごとの合格者割合などの設定はありますか？

A. 設定する予定はありません。

Q. 面接の実施方法はどうなりますか？

A. 実施方法については検討中です。

Q. 検定料はどうなりますか？

A. 既設2校と同じになる予定です。

Q. 小学校の欠席日数は不利になりますか？

A. 自己申告書の提出が認められています。必要に応じて、提出をご検討ください。

Q. 入学者選抜に向けて小学生のうちどのようなことを経験していくことが大切かアドバイスはありますか？

A. 小学校での基本的な学習内容をしっかり身につけるとともに、さまざまな体験を通して学ぶことや知ることを楽しむ気持ちを大切に小学校生活を過ごしてください。また、日常の身近なことに疑問を持ち考えをめぐらせ、自分の好奇心を大切にしているいろいろなことに挑戦してみてください。

<県立安積中学校の教育内容関連>

- Q. 以前の報道で英語の授業はオールイングリッシュということがありましたが、どのようなものになるのか教えてください。
- A. 現行の中学校の学習指導要領の中では、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本としています。生徒の理解の程度に応じた英語を用いながら、十分なコミュニケーションを取ることができる英語の授業を行うことを考えています。
- Q. 少人数指導やコース別学習はどのような授業で行うことが想定されますか？
- A. 詳細は検討中ですが、数学科や英語科において、生徒自身が自分の学びの状況に応じて、課題やコースを選択できるような授業を行うことを想定しています。
- Q. 総合的な学習の時間の時数が多く設定されていますが、医療や理数の学習を展開していくのですか？
- A. 子どもたちの好奇心を大切にしながら、自分で選択した課題をじっくり探究する時間としていく予定です。
- Q. 学校行事について、中学校単体での行事や海外への修学旅行はありますか？
- A. 中学校独自の行事などは現在検討中です。まずは高校と合同で行える行事を検討し、それ以外にどのような行事ができるのか、教員から与えられるのではなく、生徒の発想をもとに、行事を作り上げていくことを大切にしたいと考えています。修学旅行先についても、生徒や保護者の意見も踏まえながら、十分に検討していきます。必要経費の積立などについても、社会情勢も踏まえて、負担過重とならないよう検討していきます。
- Q. 新しい施設には、どのくらい理科系の設備が整いますか？また、図書館には理科に関わる書籍はどのくらい整えますか？
- A. 施設に関しては、中学校の理科室にどのようなものが整備されるかは検討中です。高校の設備も使用することができるため、レベルの高い実験や研究を中学校でも行うことは可能です。
図書館に新たに設置する本もこれから決めていくこととなりますが、これまでの安積高校の蔵書に加え、科学に関する本を充実させる予定です。
- Q. 中学校から入学した生徒と高校から入った生徒が混在するクラス編制について、メリットは説明にありましたが、これまでの検討の中でデメリットなどはどのように想定していましたか？
- A. 知識の先取りをせず、深く学ぶという方針で教育内容を検討し、高校において県立中学校とその他の中学校から入学する生徒の学びの内容に差を設けないということを基本として考えてきたため、特にデメリットを想定した検討はしていません。
- Q. 大学受験が中高6年間の学校生活の一つの目標となると思いますが、安積中学校に入った生徒が高校に入学したときのカリキュラムについて、これまでで大きな変更点はありますか？
- A. 現在、安積高校では、学びの変革のための新たな授業の形式を模索中です。授業の進度・カリキュラムなどは、入学した生徒の状況を考慮しながら、よりよい学びとなるよう引き続き検討していきます。
- Q. SSHは理科だけでなく他の教科でも実施するのですか？
- A. SSHは理数系で行われていますが、文系に関係する内容でも研究を進められるよう申請していきます。SSHの状況にかかわらず、文系の生徒も自分の課題に沿って探究し、深掘りしていけるよう進めていくことを考えています。

<その他>

Q. 安積の中高一貫教育を進めていく上で、中高の教員の連携はどのように図っていきますか？

A. 既設2校において連携を行っている実践を参考にしながら、具体的な方法を検討していきます。

Q. S T E A M教育を実践していくための教員への研修はどのように行いますか？

A. 現在、安積高校教員で研修を行っています。令和7年度に配置された中学校教員と高校教員が連携して進めることで、生徒への指導にいかしていきます。

Q. 部活動は、高校生と同じ場所で行うのですか？また、中学生用の施設を整備するのですか？

A. 中学生用の体育設備は新たに整備せず、高校生と共用になります。高校の部活動との兼ね合いも含めて、中学校で設置する部活動について検討していきま。中体連の大会への参加などについても、設置部活動をみながら検討していきま。

Q. 安積高校への進学ではなく、別の高校への進学を希望した際にサポートしてもらえますか？

A. 中高一貫教育の観点から安積高校への進学を前提としていますが、既設2校の中高一貫校でも、別の高校への進学を希望した生徒は一定数います。別の高校への進学を考える生徒に対しては、中学校教員を中心に適切に対応していきま。

Q. 安積高校が目指す高校卒業後の進路先、その割合があれば教えてください。

A. 令和4年度末の結果としては、国公立大学進学者は現役生133名です。進路先はあくまで結果ですので、将来的に目指す進路先の割合などを示すことはありませんが、生徒の進路希望を学校がしっかり後押ししながら、実現できるよう取り組んでいきます。

Q. 高校入学時に内進生と一般入学生が混在することとなりますが、例えば大学医学部の推薦枠などは、内進生が優先されるということはあるですか？

A. 大学の推薦基準は、高校の成績の内容となるので、内進の生徒だから有利となることはありません。

<要望>

◎ 県立学校であるからこそ、部活動地域移行等、部活動改革に思い切って取り組んでいただきたいです。

◎ 県立安積中学校の受験について、倍率が高くなることが予想されます。そうなった場合、倍率を見てから他の県立中学校へ志願先を変更できるような猶予・制度を考えていただきたいです。